

伊藤光男元分子研所長の絵画葵丘常設展開設

岡本 祐幸（名古屋大学大学院理学研究科 教授）

2016年11月27日（日）に伊藤光男元分子研所長の絵画の常設展が岡崎市の東岡崎駅の分子研側すぐの所にある「葵丘（ききゅう）」に開設されました。同日に葵丘で祝賀会が開かれましたが、川合眞紀分子研所長を初めとする分子研関係者、豊田泰陳自然科学研究機構岡崎生協店長、東北大伊藤研卒業生など30名の出席がありました。まず、小原淳葵丘館長が挨拶され、先代のお父様が岡崎市出身の画家荻太郎氏の作品を展示するために葵丘を建てられたが、荻さんご自分の作品だけでなく、他の画家の作品も展示することを薦めていたこと、伊藤先生が分子研所長や岡崎国立共同研究機構長の時に、葵丘の顧問をされたこと、2001年には、葵丘で水彩画の個展を開かれたことなどの縁を話されました。次に、川合分子研所長が祝辞を述べられ、その中で、伊藤先生が分子研を去られる時に、助教授会から「名誉助教授」の称号を与えられたことを伺ったので、私も所長として、一つの目標ができましたと仰ったのが、印象的でした。中村宏樹元分子研所長の音頭で乾杯がされ、暫くの歓談の後に、福山秀敏東京理科大学教授・学長特別補佐が、東北大時代から伊藤先生の「応援団」をしています、2016年2月にも、築地市場で仕入れた魚介類を持って、伊藤先生宅で宴会を開きましたと仰いました。更に、岡田光司岡崎南口ロータリークラブ会長が、伊藤先生が分子研所長や岡崎国立共同研究機構長だった時に、ロータリークラブが分子研訪問中の外国人の研究者とその家族のために、餅つき大会などを開いて交流を持ってきたこと、また、ブラザー印刷の専務取締役として、伊藤先生の画集の印刷をしてきたこと、伊藤先生の画集の前書きから、伊藤先生の奥様への追悼文を朗読され、先生が如何に奥様を愛されていたかという話をされました。次に、郷通子名古屋大学理事が伊藤先生が分子研所長時代にインドでの会議に分子研代表団に同行されたこと、伊藤先生の絵がお好きで、個展に何度か行かれたことなどを話されました。更に、小杉信博分子研教授が、伊藤先生が分子研所長時代に、年齢的には助教授とあまり変わらないのに、教授として重責を荷負わされたこと、50歳を過ぎたら趣味を持つようにと伊藤先生に言われていたのに、未だに趣味が持っていないので焦っているというようなことを言われました。最後に、分子研の杉山加余子さんの花束贈呈の後、伊藤先生がご挨拶をされて、楽しく和やかな雰囲気の中、祝賀会は終わりました。

常設展は、小原淳葵丘館長のご設計・ご提案の通りに用意されました。6枚の水彩画と伊藤先生のご略歴の額が展示されています。また、伊藤先生が出版された画集や画文集もその近くの机の上に置かれています。略歴額には、これまた小原館長のご提案で、伊藤先生ご夫妻の写真も入れられました。奥様もご一緒に写真にされたのは、伊藤先生の写生にいつも付き添われた奥様であり、先生がとても大切にされた方ですからとのこと。今回の展示はパリがテーマで、3ヶ月に1度ぐらいの頻度で伊藤先生が絵の差し替えに来られる予定だそうです。分子研の方々は勿論のこと、全国から分子研研究会などに来られる方は、ぜひ葵丘に立ち寄られて、伊藤先生の絵を鑑賞されることをお勧めします。最後に、何から何までお世話になった小原淳館長、江頭奈尾子さん初め葵丘の皆様と、常設展開設に向けて、いろいろとアドバイスしてくれた西川武志氏（私の分子研時代の博士研究員、現計算科学振興財団 FOCUS 主任研究員）にこの場を借りて感謝します。

